

令和 2 年 度
事 業 報 告
(自 令和 2 年 4 月 1 日)
(至 令和 3 年 3 月 3 1 日)

I 事業及び収入・支出の概要

1. 事業活動の概要

- (1) 調査・研究事業については、光産業創成大学院大学に委託して「レーザー科学技術の将来」を研究課題として調査を実施した。
- (2) 「晝馬輝夫 光科学賞」については、秀でた研究者 1 名を選出して、「晝馬輝夫 光科学賞」を授与して顕彰した。研究助成事業については、第 1 課題テーマ“光科学の未知領域の研究—とくに光の本質について”及び第 2 課題テーマ“光科学技術による生命科学分野の先端研究”をもって広く公募し、当年度の新規助成として第 1 課題 1 2 件、第 2 課題 1 9 件、前年度の継続助成として第 1 課題 1 5 件、第 2 課題 1 3 件に対して研究資金の助成を行った。
- (3) 普及啓発事業については、毎年開催している「浜松コンファレンス(第 3 7 回)」を無聴衆にて開催し、ホームページにてビデオ配信した。
- (4) 新設した光科学技術関連分野の大学院博士後期課程学生を対象とした奨学金事業については、令和 3 年度採用奨学生および令和 4 年度採用奨学生の募集を行った。
- (5) 交流・協力事業については、他機関・団体の主催する事業にも協力し、外部研究者等との交流に努めた。

2. 事業活動における収入・支出の概要

- (1) 経常収益としては、一般企業からの寄付金 120, 200 千円、基本財産・特定資産の運用益 30, 942 千円と雑収入を合わせ収益計として 151, 143 千円であった。前年度に比し 4, 231 千円増加した。
- (2) 一方、経常費用については、事業費が 109, 073 千円となり、前年度に比し 23, 642 千円程の減少となった。減少の大きな理由は、「農業・工業原材料生産と光技術研究会(第 22 回)」及び「先端フォトニクス国際シンポジウム(iSAP Hamamatsu 2020)」(隔年毎開催)の開催が、新型コロナウイルス禍のために延期となったことによる。管理費についても、16, 583 千円と前年度に比し 2, 601 千円減となり、経常費用計は 125, 656 千円であった。

3. 以上の結果、経常収益合計 151, 143 千円と経常費用(事業費と管理費の合計) 125, 656 千円との差 25, 487 千円が経常面での一般正味財産増加となった。

II 年度末正味財産の状況

流動資産	83,915,325 円
固定資産	5,059,321,898 円
流動負債	1,775,987 円
正味財産	5,141,461,236 円

III 事業活動の内容

1. 調査・研究事業（定款 第4条第1号関係）

(1) 委託調査研究

研究テーマ	レーザー科学技術の将来に関する調査研究
内 容	国内外最新のレーザーを用いた3次元造形の動向と将来に関する調査
委 託 先	光産業創成大学院大学

〈資料1：レーザー科学技術の将来に関する調査研究〉

(2) 資料・文献の収集

光科学技術に関する資料・文献としてPhysical ReviewのA、B、C、D、E、Letters等をオンライン版にしてWeb上での検索参照ができるようにし、広く利用するよう努めた。

2. 顕彰・研究助成事業（定款 第4条第2号関係）

(1) 晝馬輝夫 光科学賞

対 象 者	日本の光科学の基礎研究や光科学技術の発展に貢献する研究において、独自に独創的な研究業績を挙げた研究者個人で、応募締切時点で45歳未満の者。
応 募 件 数	7件（新規3件、前年度からの繰り越し4件）
対象者数・金額	1名 副賞 5,000千円
受 賞 者	高本 将男（理化学研究所 香取量子計測研究室）
研究テーマ	高精度光格子時計の開発とその実用化に向けた研究

〈資料2：令和2年度 晝馬輝夫 光科学賞・研究助成 一覧表〉

(2) 研究助成

募 集 課 題	第1課題 光科学の未知領域の研究—とくに光の本質について 第2課題 光科学技術による生命科学分野の先端研究
応 募 件 数	第1課題 55件 第2課題 89件
助成件数・金額	第1課題 12件 第2課題 19件 総額 35,300千円
前年度継続分の助成件数・金額	第1課題 15件 第2課題 13件 総額 14,700千円

〈資料2：令和2年度 晝馬輝夫 光科学賞・研究助成 一覧表〉

(3) 募集案内

国立・公立・私立大学の理・工・医の学部、関係研究科、研究機関等 342 施設に対し、応募要項・ポスターを直接送付、また学会誌及びホームページ等に公告を掲載し、広く募集を行った。

(4) 入選者の決定

審査委員による個別選考を行ったのち、審査委員会及び理事会における審議を経て入選者を決定した。

3. 普及啓発事業（定款 第4条第3号関係）

浜松コンファレンスの開催

名 称	浜松コンファレンス（第37回）－新しい文化論
内 容	光をテーマとして文化の日に因んで開催した。光科学技術における先端的研究が市民生活にどう関わり合いを持っているかを解説するとともに、光科学技術によって人類あまねく真に健康で、幸福な世界を築こうという理念を啓蒙普及したいとする集いである。 挨拶：晝馬 明 公益財団法人 光科学技術研究振興財団理事長 講演：「Kai タンパク質が刻む生命の一日」 近藤 孝男 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻 名誉教授 特別教授
開 催 日	令和2年11月3日（火）
開 催 場 所	浜松市／アクトシティ浜松・中ホール
参加人数	無聴衆、財団HPでビデオ配信

4. 奨学金事業（定款 第4条第4号関係）

光科学技術関連分野で博士学位の取得を目指す学生に対して、令和3年度採用、および令和4年度採用の募集を行った（令和3年2月1日～3月31日）。ホームページへの募集案内の掲載、指定大学院への募集要項の直接送付と、広く募集した。

5. 交流・協力事業（定款 第4条第5号関係）

レーザーによるものづくり中核人材育成講座事業（光産業創成大学院大学）の協力金を負担した。

IV 寄附金の受け入れ

運用財産として4法人から120,200千円の寄附金を受け入れた。

〈資料3：受け入れ寄附金一覧表〉

V 届出・申請

年 月 日	内 容	提 出 先
令和2年6月22日	令和元年度事業報告等の提出	内閣府
令和2年6月23日	変更届出書(定款変更の件)提出	内閣府
令和2年7月3日	変更認定申請書(奨学金事業追加の件)提出	内閣府
令和2年7月27日	変更届出書(評議員名簿等変更の件)提出	内閣府
令和2年9月30日	第37回浜松コンファレンス後援名義使用許可申請	浜松市、 浜松商工会議所、 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー、 浜松ホトニクス株式会社
令和3年2月3日	変更届出書(定款及び登記事項変更)提出	内閣府
令和3年3月30日	令和3年度事業計画書等の提出	内閣府

VI 理事会・評議員会等会議

理事会・評議員会・審査委員会を次のとおり開催し、それぞれ上程の議案が承認・可決された。

開催日・場所	会 議	議 案
令和2年5月20日 書面決議	定時理事会 令和2年度第1回	・令和元年度事業報告・決算承認、他
令和2年6月5日 書面決議	定時評議員会 令和2年度第1回	・令和元年度事業報告・決算承認、他
令和2年6月11日 書面決議	臨時理事会 令和2年度第1回	・代表理事選定の件
令和2年11月27日 東京/如水会館 オンライン併用	審査委員会 令和2年度第1回	・令和2年度晝馬輝夫光科学賞選考 ・令和2年度研究助成選考 ・令和元年度助成の研究者に対する継続助成選考
令和2年12月11日 書面決議	定時理事会 令和2年度第2回	・令和2年度晝馬輝夫光科学賞決定 ・令和2年度研究助成決定 ・令和元年度助成の研究者に対する継続助成決定、他
令和2年12月22日 書面決議	臨時評議員会 令和2年度第1回	・奨学金事業を追加するため定款第4条を変更する件、他
令和3年1月11日 書面決議	臨時理事会 令和2年度第2回	・奨学金事業運営規程を定める件、他
令和3年2月26日 書面決議	臨時理事会 令和2年度第3回	・令和2年度第2回定時評議員会開催要項(案)の件

<p>令和3年3月18日 浜松/オークラ オンライン併用</p>	<p>定時理事会 令和2年度第3回</p>	<p>・令和3年度事業計画・予算承認、他</p>
<p>令和3年3月19日 浜松/オークラ オンライン併用</p>	<p>定時評議員会 令和2年度第2回</p>	<p>・令和3年度事業計画・予算承認、他</p>